

# 霧島錦江湾国立公園

## ステップアッププログラム2030

国立公園満喫プロジェクト

霧島錦江湾地域協議会



©Koichiro Ikeda  
(ikeikecyan)



©mr0508



©伊藤功輝



令和8年  
(2026年)  
2月20日策定

©ほせいどん



# 目次

1. はじめに	2
2. 霧島錦江湾国立公園について	3
(1) 霧島錦江湾国立公園のコンセプトとストーリー	
(2) 現状分析	
(3) 平成 28 年（2016 年）以降の取組の成果と課題	
(4) 最近の動き	
3. 取組の基本方針	25
(1) 取組の目標（方向性）	
(2) ターゲット	
(3) 指標	
4. 具体的な取組	28
(1) 霧島錦江湾国立公園のブランド化	
(2) 霧島錦江湾国立公園の資本である優れた自然風景の保全・再生	
(3) 優れた自然風景を活用した魅力的な滞在体験の提供	
(4) 保護と利用の好循環による地域への貢献	
5. 推進体制	32
(1) 実施体制	
(2) 効果検証等	
国立公園満喫プロジェクト 霧島錦江湾地域協議会 設置要綱	34

霧島錦江湾国立公園ステップアッププログラム 2030（概要）

# 1. はじめに

霧島錦江湾国立公園の感動的な自然風景は、自然公園制度や地域の保護活動により保全されてきました。その風景を未来に引き継ぐためにも、それを適切に活用した観光や環境教育との両輪によって、来訪者に感動・気付き・学びを提供し、自然環境への責任と愛着を喚起し、保全への関与・貢献を引き出すとともに、観光振興により地域経済を活性化させ、地域住民の愛着と誇りを醸成し、地域における保全の担い手を確保していくことが重要です。

地域の魅力・ブランド力を更に向上させ、国内外の利用者が満喫できる環境を整えることにより、地域経済を活性化させ、自然環境の保全に再投資される「保護と利用の好循環」を実現し、それにより、観光振興や交流人口・関係人口の創出・拡大による地域活性化、二次交通・生活路線の維持、地域経済・地域コミュニティの維持・再生といった地域課題の解決や地域の方々のウェルビーイング向上に貢献することを目指す必要があります。

霧島錦江湾国立公園は、平成 28 年（2016 年）に政府が策定した「明日の日本を支える観光ビジョン」を踏まえ、日本の国立公園を世界のナショナルパークとしてブランド化を図ることを目的に開始された「国立公園満喫プロジェクト」において、「多様な火山」と『環霧島』の自治体連携」が評価され、先行的・集中的に取組を実施する 8 つの国立公園の 1 つに選定されました。その後、平成 28 年度（2016 年度）から令和 2 年度（2020 年度）までの 5 年間、霧島錦江湾国立公園ステップアッププログラム（以下、SUP と言う。）2020 に基づき、地域関係者が協力してプロモーション、施設整備、多言語化、交通アクセス改善等に取り組み、国立公園内の訪日外国人利用者数が平成 27 年（2015 年）の 7.1 万人から平成 30 年（2018 年）に 14.2 万人に倍増し、満足度も向上するなど、一定の成果が出ました。また、令和 3 年度（2021 年度）から令和 7 年度（2025 年度）までの 5 年間は、SUP2025 に基づき、新型コロナウイルスの影響前の利用者数（国内外）の復活と、利用者一人当たりの消費額の増加及び満足度の向上を目標に、霧島地域、桜島・錦江湾奥地域、指宿・佐多地域それぞれで、プロモーション、人材育成、インナーブランディング、2 次交通改善等に取り組み、令和 6 年（2024 年）時点の国内利用者数は令和元年（2019 年）の約 99% に到達し、国内利用者の令和 6 年（2024 年）の消費額、満足度も令和元年（2019 年）を上回るなど、目標を概ね達成しています。

本ステップアッププログラム（SUP2030）は、令和 8 年度（2026 年度）から令和 12 年度（2030 年度）までの 5 年間を計画期間とし、SUP2025 を継承しつつ、霧島錦江湾国立公園の保護と利用の好循環による更なる地域貢献に向けた、関係機関が一体となった取組の指針として、行政、民間からなる霧島錦江湾地域協議会において策定するものです。

## 2. 霧島錦江湾国立公園について

### (1) 霧島錦江湾国立公園のコンセプトとストーリー

#### 霧島錦江湾国立公園全体のコンセプト

南北に連なる火山帯が織りなす壮大な地形とその恵み、悠久の歴史と神話に彩られた  
霧島・錦江湾～まるごと楽しむ南九州の自然・文化・食～

当公園は、昭和9年（1934年）に指定された我が国最初の国立公園のひとつです。加久藤・小林カルデラ、始良カルデラ、阿多カルデラという3つの巨大カルデラ火山の列で構成される日本で唯一の特徴を持つ国立公園で、複合火山の霧島山塊からなる霧島地域、我が国随一の海域カルデラ景観を有する錦江湾地域からなります。国立公園全体で海面から山頂まで1,700mの標高差があり、多種多様な地形・景観・生態系を楽しむことができます。また、火山や自然と地域の人々とのつながりによる信仰・食・温泉など歴史文化も楽しむことができ、利用者に感動・気づき・学びによる利用体験を提供します。

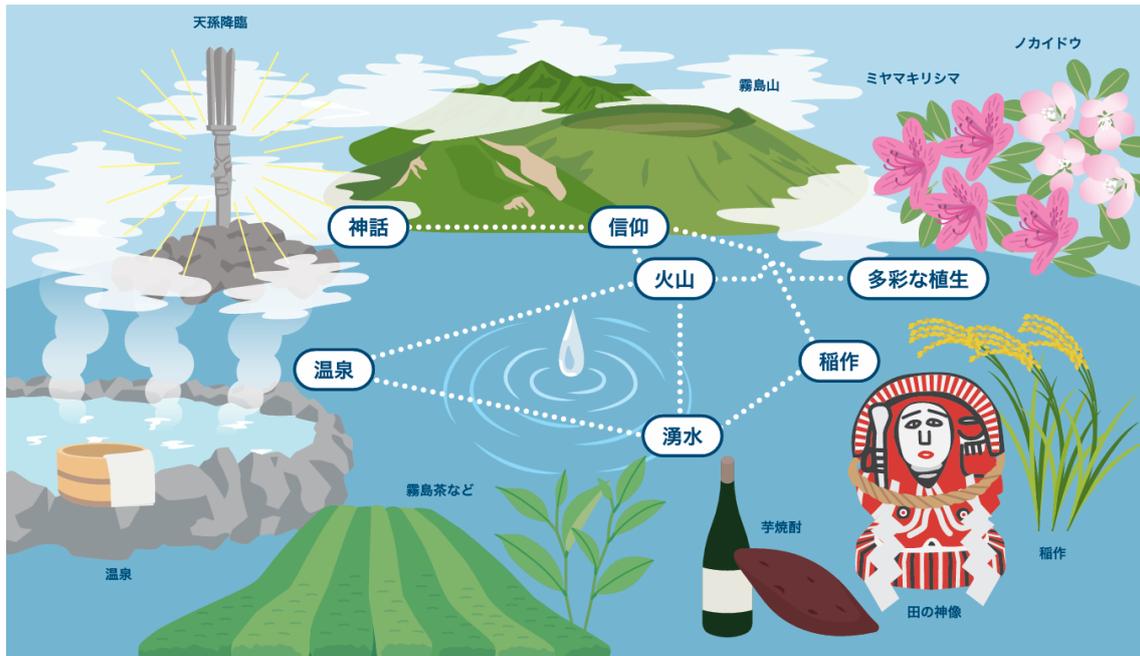
#### 📍 アクセスルート情報

霧島錦江湾国立公園への玄関口は、国際線や羽田空港等の都市圏の国内線が就航する鹿児島空港や宮崎空港、海外からのクルーズ船が寄港する鹿児島港（マリポートかごしま）や油津港、さらには福岡等の北九州方面から九州新幹線を利用して鹿児島中央駅へ至るルートが考えられます。また、九州域内では九州道（高速道路）を利用する車の利用者も多くいます。



## 霧島地域のコンセプト

多様な火山地形と活きた火山の恵み、神話と伝承を辿り、  
自然と人々の営みが織りなすストーリーを体感、体験して楽しむ霧島地域



霧島地域は、加久藤・小林カルデラの南縁に位置し、国内では類を見ない 20 数座の火山と多くの火口湖が集中する火山群です。近年では平成 23 年（2011 年）及び平成 29 年（2017 年）～平成 30 年（2018 年）、そして令和 7 年（2025 年）に新燃岳が、また平成 30 年（2018 年）には 250 年ぶりに硫黄山が噴火するなど、現在も活発な火山活動が見られます。

噴火を繰り返してきた霧島山は人々にとって恐ろしいものである一方で、恩恵をもたらすものであると考えられ、信仰の対象とされてきました。霧島神宮や霧島東神社などを含む霧島六社権現がつくられ山岳修行の地となり、また天孫降臨神話の舞台として神社には神話の神々が祀られ、高千穂峰山頂には地上に降りた神が突き立てたとされる「天之逆鉾」が立っています。

霧島山は遠方から見て霧に浮かぶ島のような姿が地名の由来ともいわれるほど、降水量が多い地域です。そのため霧島山周辺には地下水や湧水が豊富にみられ、人々の生活に多くの恵みを与えています。天然水は飲料や生活用水、農畜産や淡水魚養殖などに利用され、加久藤・小林カルデラから成る盆地には稲作が盛んに行われています。また、火山噴出物によるシラス台地が周囲に広がり、水はけのよい土地ではサツマイモや茶の生産も盛んであり、サツマイモと良質の天然水から芋焼酎もつくられます。そして豊富な地下水はマグマの熱で熱せられて、泉質豊かな温泉地としても人々に利用されています。そして火山がもたらす岩石は、石橋や田の神像などに使われ、地域の生活や文化を支えています。

霧島山では山岳の標高差や溶岩の時代により多様な植生が見られ、植生遷移の過程を見ることができます。世界でここでしか見られないノカイドウや、霧島の名がついたミヤマキリシマなどがあります。また、ブナやミズナラなど寒い地域に分布する樹木も見られ、これらは最後の氷期（約2万年前）に分布していたものが残ったものとされています。野生のシカやアナグマ、イノシシなど野生生物もよく見られ、えびの高原での秋の雄ジカの鳴き声は「日本の音風景100選（環境省）」に選ばれています。また、ヤイロチョウなど貴重な鳥類も生息する野生動植物の宝庫となっています。



### 霧島地域までのアクセスルート

- ・九州自動車道及び宮崎自動車道の IC から主要道（国・県道）を通るルート（小林 IC からの県道1号は、令和7年（2025年）11月現在硫黄山の火山活動により、ガス濃度が基準値未満の場合の土日のみ通行可となっています。）
- ・鹿児島空港からバスの利用や主要道（国・県道）を通るルート
- ・霧島神宮駅、霧島温泉駅、国分駅、嘉例川駅などから観光路線バスや徒歩などを利用するルート



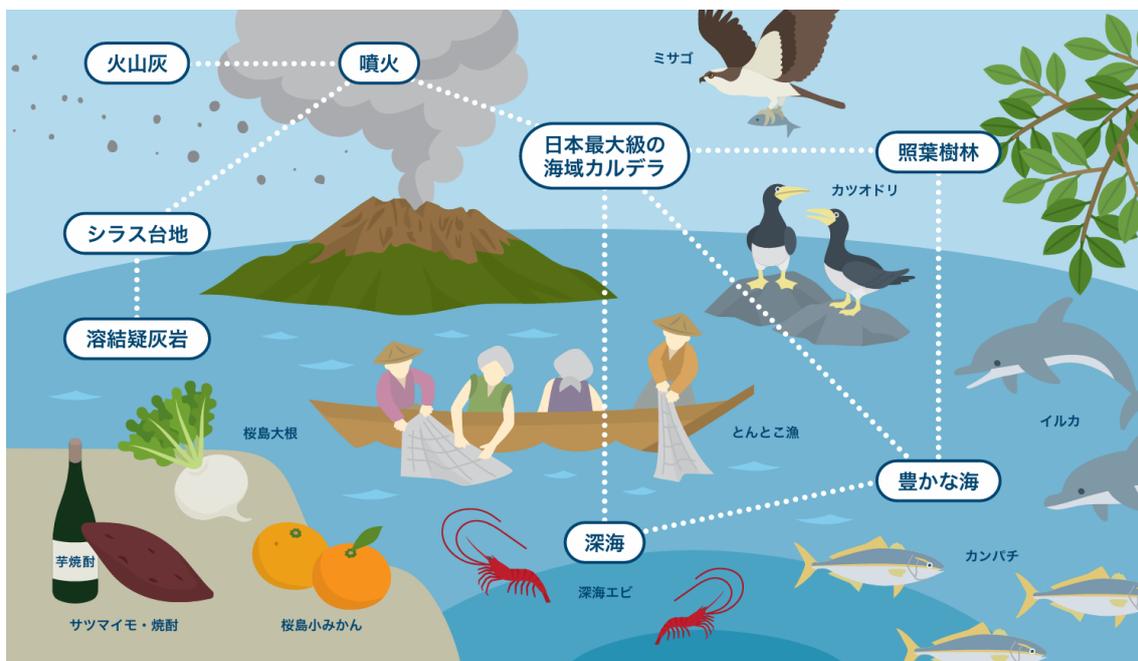
### （参考）最寄り IC 及び駅

自動車道：溝辺鹿児島空港 IC、横川 IC、栗野 IC、えびの IC、小林 IC、高原 IC

JR 駅：霧島神宮駅、霧島温泉駅、国分駅、嘉例川駅、栗野駅、えびの駅、小林駅、高原駅

## 桜島・錦江湾奥地域のコンセプト

太古の火山活動でできた錦江湾の豊かな海と活火山桜島を真近に体感、  
桜島・錦江湾奥地域



錦江湾は巨大噴火により形成された始良カルデラの陥没地形であり、現在も活発に火山活動を続ける桜島を象徴とし、ダイナミックな大地の形成、豊富な温泉の他、薩摩藩にちなむ歴史・文化的資源など、自然と人文とが調和した特色ある景観を有しています。そして錦江湾と桜島火山をさまざまな角度から楽しめる展望地が各地にあります。

カルデラである錦江湾には水深 200m を超える深海や海の中まで続くカルデラ壁の崖、海藻がつくる海の森、干潟など、様々な海中環境があります。また周囲には照葉樹林の森が多く、豊かな栄養分が河川や地下水を通して注ぎ込み、多様な海洋生物を育てています。約 1,000 種類の魚がいるといわれており、それらを食べるイルカやミサゴ、カツオドリも見られています。そして深い海と暖かい海水を利用したカンパチやブリの養殖も行われ、深海エビ（ナミクダヒゲエビ、ヒメアマエビ）などを獲る「とんとこ漁」も行われています。

活発な噴火活動が続く桜島では、幾多の噴火によって島の地形は大きく変貌を続けています。過去の土石流で運ばれた土砂は、裾野に扇状地を形成していますが、日当たりと水はけが良いことから、桜島大根や桜島小みかん、びわ等の栽培が行われ、特産品となっています。また、周囲のシラス台地にはサツマイモをはじめ特徴ある農作物が生まれ、サツマイモとシラス台地でろ過された天然水を原料とする芋焼酎の生産も盛んです。

噴火を続ける桜島には現在も約 3,500 人（令和 6 年（2024 年）4 月現在）が暮らしており、わずかな数キロ先には鹿児島市街が広がります。約 100 年前（大正 3 年（1914 年））の大

規模噴火では流出した溶岩によって大隅半島と陸続きになりましたが、火山灰や軽石により1日で2mも埋まった埋没鳥居が噴火の記憶として残されています。鹿児島市街には日常的に桜島からの降灰があり、天気予報で風向きによる降灰予測が報じられ、灰を集める「克灰袋」が各家庭に配られるなど、噴火は暮らしの一部となっています。一方で、市内の公衆浴場のほとんどが温泉であるなど日常的な火山の恩恵もあり、また存在感のある桜島は故郷のシンボルとして親しまれています。



#### 桜島・錦江湾奥地域までのアクセスルート

- ・鹿児島港フェリーターミナルから定期船を利用するルート
- ・九州自動車道及び東九州自動車道等のICから主要道（国・県道）を通るルート



#### (参考) 最寄り IC 及び駅

自動車道：鹿児島 IC、始良 IC、隼人東 IC、国分 IC

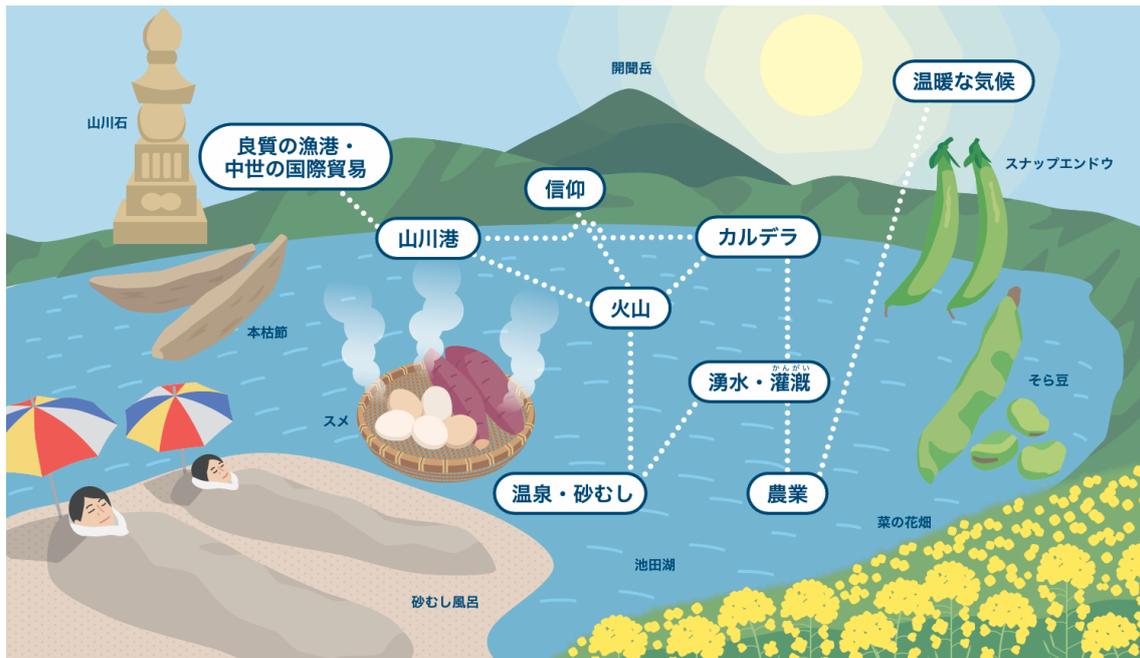
JR 駅：鹿児島中央駅、鹿児島駅、仙巖園駅、竜ヶ水駅、重富駅、始良駅、国分駅、隼人駅

港：（定期船）桜島港フェリーターミナル、垂水フェリーターミナル

## 指宿・佐多地域のコンセプト

多様な温泉と開聞岳の眺め、  
海岸の断崖景観と亜熱帯性植物の指宿・佐多地域

### (指宿地域)



指宿地域は、ほぼ全域が火山活動によって形成された地形となっています。全体が太古の巨大噴火による巨大なカルデラであり、鬼門平や魚見岳、知林ヶ島付近にカルデラの痕跡が見られるとする説もあります。九州最大の湖、池田湖は約5700年前の大噴火によるカルデラで、最深部233mと国内4番目の深さであり、湖底にも火山があります。山川湾も同時期の火山活動によりつくられました。湾内は波が穏やかで水深が深いことから、中世には国際貿易港としてにぎわい、キリスト教やサツマイモの伝来の歴史にも深く関わりました。約3700年前の縄文時代に噴火して誕生した開聞岳は何度か噴火を繰り返して薩摩富士と呼ばれる円錐形の美しい姿となりました。そして山岳信仰や船の航海安全の信仰の対象ともなりました。また、火山灰により埋まった縄文時代の集落の上に弥生時代の集落がつけられ、同じ場所（指宿橋牟礼川遺跡）からそれぞれの土器が見つかったことから時代区分が明らかになり、縄文時代が弥生時代より古いことが分かりました。

指宿の火山活動はこの地に千カ所以上の豊富な泉源をもたらし、古くから湯治場として利用されていました。また、砂浜から湧き出る温泉を利用した砂むし温泉は天然のものとしては世界でも珍しいものです。約5700年前の噴火でできた鰻池の集落には、いたるところから火山活動による高温の蒸気が噴き出しています。地域の人々はこの蒸気を天然のかまど「スメ」として利用し、料理などに利用しました。これにより薪炭など燃料を必要としな

かったといわれています。

山川湾は、現在はカツオの水揚げ港として利用されており、水産加工施設が集まっています。そこでつくられる本枯節は、日本一（令和5年（2023年）現在）の生産量を誇ります。また池田湖の水は地下水となり、平成の名水百選に選ばれた京田湧水からも湧き出ており、唐船峡そうめん流しなどで使われています。温暖な気候と池田湖からの灌漑用水を使い、オクラやソラマメ、スナップエンドウなど全国屈指の生産量を誇る農作物も生産されています。そして温泉熱を使った温室での観葉植物も生産されており、かつては製塩にも温泉熱が利用されていました。温泉の熱水や火山ガスによりカオリンという土が生み出され、白薩摩（薩摩焼）の原料としても使われています。また山川の淡黄色の凝灰岩は山川石と呼ばれ、石垣や薩摩藩主の墓石にも利用されています。このように火山活動がもたらす地形や温泉は、地域の生活や文化に大きな影響と恵みを与えています。

### （佐多地域）



佐多地域は本土最南端の佐多岬と雄川の滝（平成30年（2018年）に国立公園に編入）が主に利用されています。佐多岬の亜熱帯性植物と海岸の勇壮な断崖景観は第一級で、海岸探勝、風景探勝の観光地として親しまれています。また、雄川の滝はエメラルドグリーン of 滝壺と幾何学模様の岩肌のコントラストが魅力で、近年観光客が増加しています。海域公園地区では、サンゴの海特有の色彩豊かで多種多様な生き物を楽しむことができます。

温暖な佐多地域では亜熱帯気候の植物や蝶などが見られ、江戸時代に作られた薬草園ではレイシやライチなど中国や東南アジア産の珍しい薬草や果物が栽培されていました。また、古くから自生していた柑橘類「辺塚だいたい」が地域の特産品として栽培されています。最近ではパインアップル、パッションフルーツ、アボカドなどのトロピカルフルーツも生産

されるようになりました。佐多岬周辺の海ではイセエビや瀬物と呼ばれる魚介類、海藻などが豊富で、錦江湾側ではカンパチの養殖も行われています。これらは暖かな気候と黒潮の恵みといえます。

また、佐多岬にはハイビスカスやソテツが生い茂り、ツマベニチョウなど南国の蝶が舞います。本土最南端の岬の向こうは夜になると暗闇となり、水平線近くのカノープスを含む星空がよく見えます。猛禽類で渡り鳥のサシバは、佐多岬に数千羽が集まり、群れとなってその後海を越えて南の島へ向っていきます。佐多岬にある灯台は横浜から上海への安全な航海の助けとなり、また岬にある御崎神社では1300年も前から海上安全や豊漁が祈られてきました。

大隅半島を東西に横断する雄川は、流域周辺の農業を支えてきました。その中流域に雄川の滝があり、長い時間をかけて削られてきた滝の岩肌は、火山の噴出物が冷えて固まる過程でできた幾何学状の節理が広がっており巨大な壁となっています。川の上流から流れ落ちる滝に加えて、岩肌のいたるところから地下水が流れ出ており、多数の滝となってエメラルドグリーンで美しい広い滝壺に落ちていきます。その滝の落差を利用し、100年以上前から水力発電も行われています。雄川の河口付近は、かつて南蛮貿易の港にもなっており、船に係留した大楠の木が今も残っています。このように、雄川の滝周辺の流域は様々な形で、地域で重要な役割を果たしていたといえます。



#### 指宿・佐多地域までのアクセスルート

- ・鹿児島市内から指宿地域に向かう主要道（国・県道）を通るルート
- ・最寄り駅から主要道（国・県道）を通るルート
- ・鹿児島港南埠頭から高速船、山川港と根占港の定期船を利用するルート
- ・根占港から佐多地域へ向かう主要道（国・県道）を通るルート



#### (参考) 最寄り駅及び港

JR 駅：指宿駅、山川駅、開聞駅など

港：(定期船) 山川港、根占港 (高速船) 鹿児島港南埠頭、指宿港

## (2)現状分析

霧島錦江湾国立公園の利用者数（国内外を含む）は、令和2年（2020年）より新型コロナウイルス感染拡大の影響による利用者数の急激な減少が見られますが、令和5年（2023年）の時点で約99%まで回復しています。



（出典：自然公園等利用者数調査 国立公園利用者数（公園、年次別）、2014～2023）

図1) 霧島錦江湾国立公園利用者数の推移

令和元年（2019年）以前、訪日外国人利用者数は増加傾向にありましたが、令和2年（2020年）から令和4年（2022年）にかけて、新型コロナウイルス感染拡大による移動制限の影響で減少しました。令和5年（2023年）以降、徐々に回復していますが、霧島錦江湾国立公園の玄関口である「鹿児島空港」の国際線定期便再開の遅れが影響し、令和6年（2024年）時点で令和元年（2019年）時の訪日外国人利用者数の約43%に止まっています。



（出典：●2015～2023＝環境省 国立公園別訪日外国人利用者数推計値

●2024＝環境省業務報告書「令和6年度「国立公園満喫プロジェクト」推進業務報告書」

図2) 霧島錦江湾国立公園 訪日外国人利用者数の推移

訪日外国人が多く訪れている桜島ビジターセンターでは国・地域別の来館者数を集計しており、令和6年度（2024年度）の年間総来館者数100,398人のうち、訪日外国人が約26%にあたる25,636人となっています。国・地域別の内訳は、韓国22%、香港13%、台湾12%、中国9%、その他アジア9%、ヨーロッパ19%、北アメリカ11%、オセアニア4.7%、南アメリカ・中央アメリカ・アフリカがそれぞれ1%以下となっています。

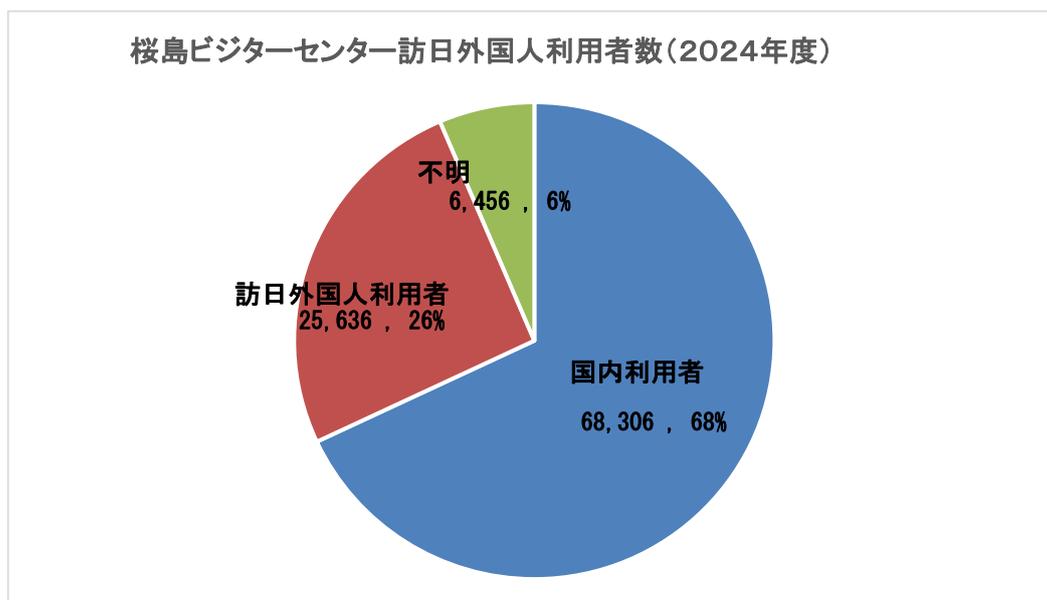


図3) 桜島ビジターセンター 訪日外国人利用者数 (2024年度)

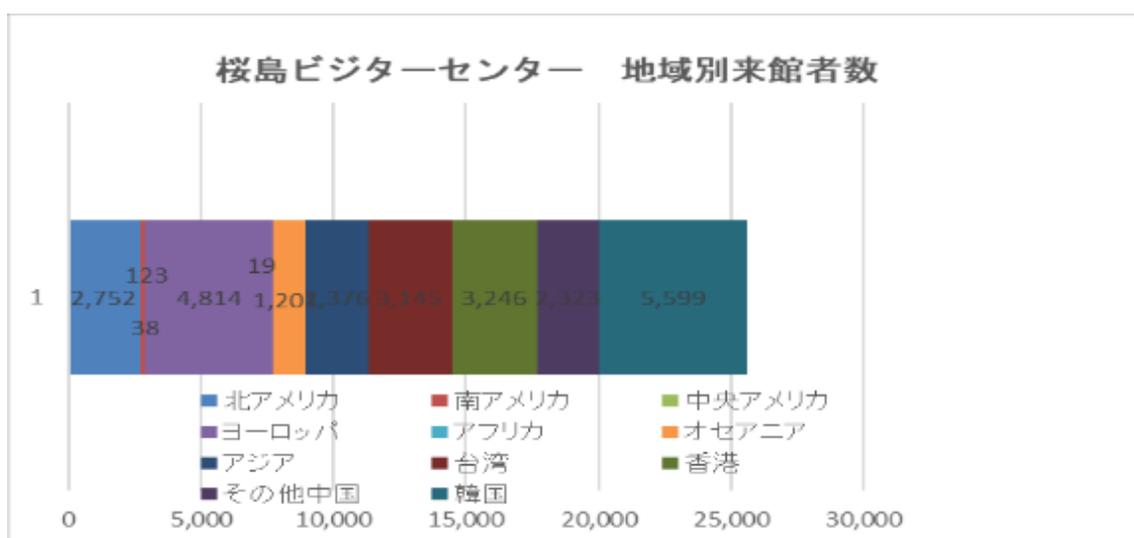
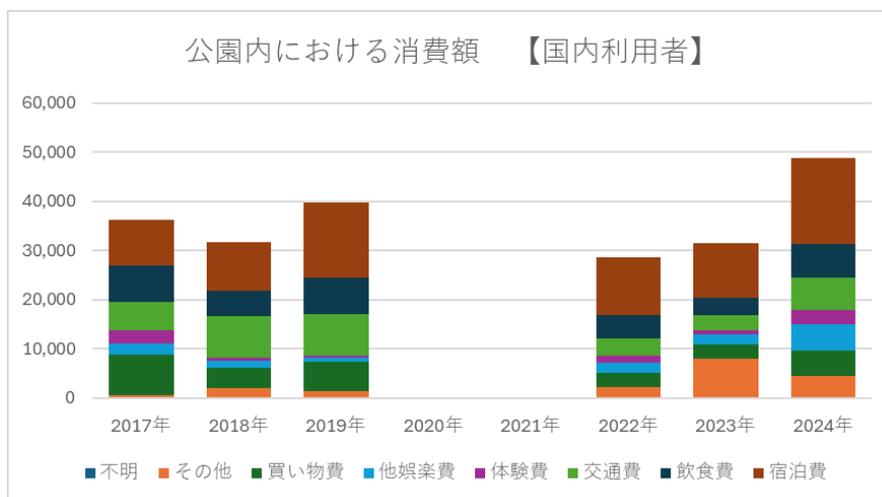


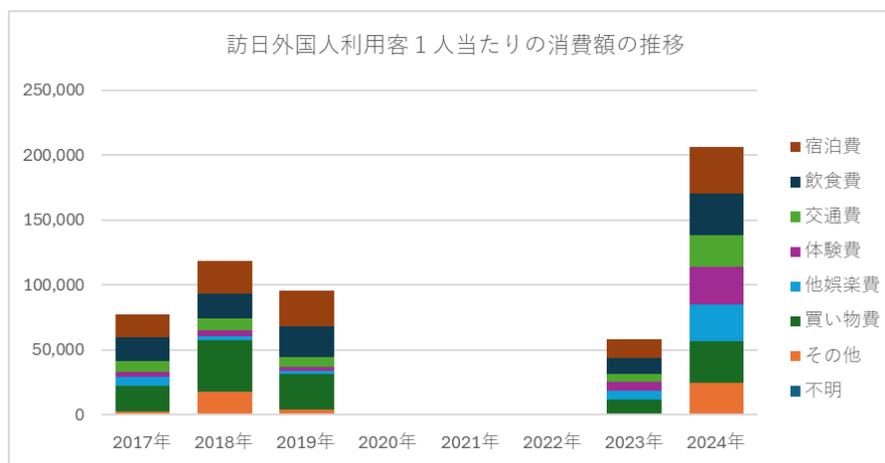
図4) 桜島ビジターセンター 国・地域別来館者数 (2024年度)

霧島錦江湾国立公園における一人当たり消費額には毎年増減がありますが、国内利用者に比べ訪日外国人の方が高い傾向にあります。



(出典：国立公園訪問者アンケート調査（環境省）2017年度～2024年度)

図5) 霧島錦江湾国立公園における国内利用者一人当たり消費額の推移



(出典：国立公園訪問者アンケート調査（環境省）2017年度～2024年度)

図6) 霧島錦江湾国立公園における訪日外国人利用者一人当たり消費額の推移

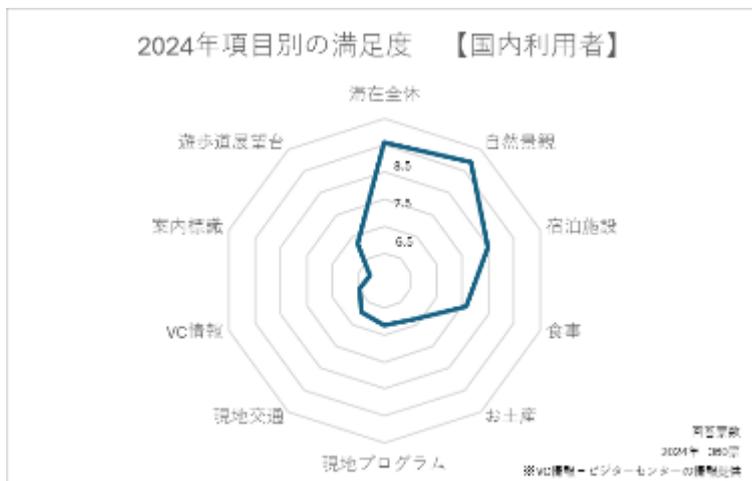
霧島錦江湾国立公園における来訪者アンケートによる質の評価においては、国内外利用者ともに、満足度や推奨意欲は高い水準で横ばいの推移を示しています。一人当たり支出額と滞在・宿泊日数は年によって増減が見られ、リピーター率は増加傾向が見られます。



※2018～2019年調査と2022～2024年調査ではそれぞれ調査方式が異なるため、経年比較は参考程度。  
 (出典：令和6年度「国立公園満喫プロジェクト」推進業務 公園別カルテ 霧島錦江湾国立公園 (環境省))

図7) 霧島錦江湾国立公園主要指標の経年推移

令和6年（2024年）に実施した項目別満足度についてのアンケート結果によると、国内外利用者ともに自然景観への満足度は高いものの、施設面や外国語対応などにおいては十分ではないという結果となっています。



(出典：国立公園訪問者アンケート調査（環境省）2024年度)

図8) 2024年項目別の満足度（国内利用者）



(出典：国立公園訪問者アンケート調査（環境省）2024年度)

図9) 2024年項目別の満足度（訪日外国人）

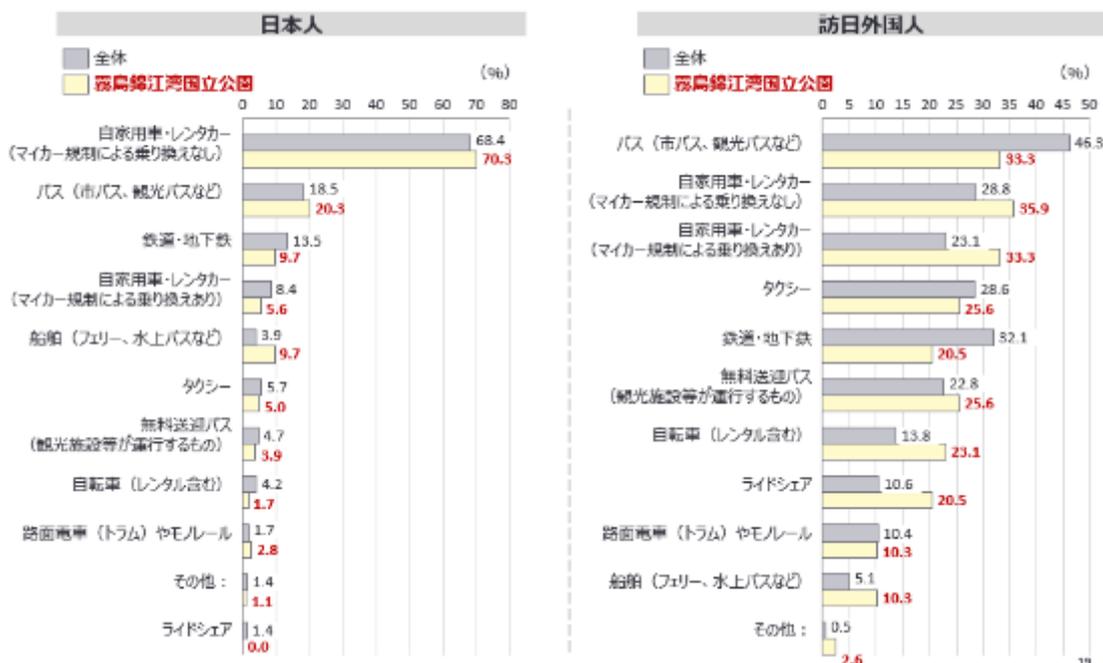
霧島錦江湾国立公園における国内利用者アンケートにおけるテキストマイニング結果を見て、温泉や景観、食事への満足度が高い一方で、二次交通や案内標識への要望が見られます。訪日外国人への同じアンケートについては、サンプル数は少ないものの、景観や食事、接客態度を評価する回答が多くみられました。



(出典：国立公園訪問者アンケート調査（環境省）2024年度)

図 10) 霧島錦江湾国立公園国内利用者アンケート結果のテキストマイニング結果  
(左：特に満足したこと 右：改善要望)

移動手段としては、国内利用者の7割以上が自家用車・レンタカーを利用しているのに対し、訪日外国人はバスや鉄道など公共交通を多く利用しています。また国内外利用者ともに割合は低いものの、レンタル含む自転車も利用されています。



(出典：国立公園訪問者アンケート調査（環境省）2024年度)

図 11) 訪問時に使用した交通手段 (調査を実施した 14 国立公園平均との比較)

### (3)平成 28 年(2016 年)以降の取組の成果と課題

これまで SUP に基づき、地域関係者が協力して施設整備等の利用環境整備、コンテンツ造成、交通アクセス改善、インナーブランディング等、多岐に渡り取り組んできました。

主な例として、佐多岬における展望台・公園エントランス等の一体的整備を行うとともに、雄川の滝の国立公園編入・施設整備も行われ、さらには、佐多岬・雄川の滝をめぐる周遊バスの運行による二次交通の改善など、大隅半島南部への誘客の促進に貢献する取組が進捗しました。雄川の滝においては、令和 6 年(2024 年)から利用者の安全性や自然環境を維持する目的で、利用者負担制度が導入され、「保護と利用の好循環」を体現する事例が形成されています。

一体的な整備等によって利用者数は急激に増加しましたが、新型コロナウイルス感染拡大による行動制限の影響で落ち込みました。その後は台風などによる通行止めなども影響し、大きな伸びはないものの、比較的高い水準を維持しています。



写真：佐多岬展望台、トイレ、園路の一体的整備



写真：雄川の滝の料金所及び展望所

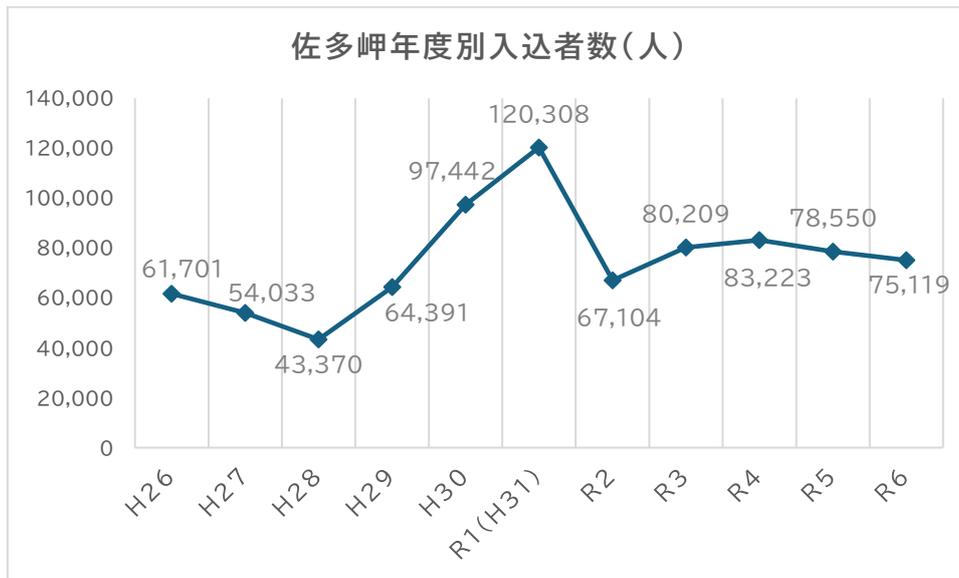


図 12) 佐多岬年度別入込者数 (H26～R6)



図 13) 雄川の滝年度別入込者数 (H26～R6)

また、御池皇子港では、民間事業者及び高原町が中心となって、令和2年度(2020年度)から令和5年度(2023年度)にかけて、「国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業」等を活用して、景観阻害になっていた廃屋化した休憩施設の解体撤去・再整備や観光利用ニーズの増加を受けた駐車場、公衆トイレの改善に取り組み、利用拠点の景観改善及び利用サービスの向上が図られました。その後、利用者数の増加が見られています。



写真：利用拠点整備前の御池皇子港（令和2年度（2020年度））



写真：利用拠点整備後の御池皇子港（令和4年度（2022年度））



(データ：宮崎県観光動向調査(単位：人))

※計算方法(御池キャンプ村客数+御池野鳥の森客数+霧島東神社客数)÷3に

(有)御池観光、神銚座(かむくら)利用者数を足す

図 14) 御池皇子港利用者数推移 (R1～R6)

その他にも、霧島地域では、韓国岳登山道休憩所や大浪池園地休憩所、えびの高原白紫池休憩所の整備、韓国岳登山道や池めぐり周回路の整備、高千穂河原ビジターセンターのリニューアル整備、御池野鳥の森キャンプ場におけるワーケーション施設の整備、白鳥展望所等の展望台の整備、道の駅えびのにおけるアウトドアステーションの開設、白紫池スタンドアップパドルボートや霧島神宮周辺のE-Bike利用等の新たな体験コンテンツの創出、霧島連山周遊バスや霧島神宮アクセスバス等の周遊バスの運行等が進められ、民間によるホテルの進出や霧島神宮駅のリニューアル等も見られました。

桜島・錦江湾奥地域では、桜島ビジターセンター周辺やなぎさ遊歩道の整備、桜島港フェリーターミナルのリニューアル、重富海岸の駐車場整備、海洋ゴミを回収するカヤックツアー等の民間と連携した体験コンテンツの造成等が進められ、JR 仙巖園駅の新設等も見られました。

指宿・佐多地域では、池田湖におけるカフェ等を併設した利用拠点の整備や体験コンテンツの充実、鰻池周辺の駐車場整備、鰻池や佐多岬等におけるガイド人材の育成等が進められました。

全体的な取組としては、4地域（霧島・桜島錦江湾奥・指宿・佐多）それぞれの地域資源の繋がりをストーリーとして整理し、インナーブランディングのツールとしてとりまとめた「ストーリーブック」を作成し、観光事業者向けの普及セミナーを展開する等インナーブランディングに係る取組を進めました。



(霧島錦江湾国立公園ストーリーブック)

<https://www.env.go.jp/park/kirishima/data/index.html>



国立公園においては、官民連携による利用拠点整備やアクティビティ造成が進みつつある一方で、国立公園の管理やアクティビティ・滞在サービスを担う人材・人員が十分ではありません。地域の自然や文化のストーリーを伝えるインタープリテーション能力の更なる向上を図るとともに、各種コンテンツの担い手となる民間事業者の雇用の維持・拡大が必要です。また、ターゲットのニーズや交通手段に応じた戦略的なプロモーションを推進していくことが必要です。

＜令和3年（2021年）以降の主な取組及び成果のまとめと課題＞

地域	取組方針	取組成果・評価	課題
全体	人材育成	ジオガイド養成講座及び育成講座の開催などにより、ガイドのスキルアップに向けた取組が進展	観光客が利用する商業施設の従事者向けに、価値や魅力を再認識してもらうための取組が必要
	インナーブランディング	ストーリーブックの作成など、インナーブランディングに必要なツールの整備が進展	ストーリーブックが地域の関係者に浸透していないため、ストーリーブックを活用したインナーブランディングの取組の強化が必要
	二次交通	主要な観光拠点をめぐる周遊バスの運行、空港や駅からのアクセスバスの新設、JRの駅の新設などの取組によりアクセスが向上	取組が一部地域に限定され、面的に広がっていない 公共交通以外のアクセス手段の活用についても検討が必要
	エリア間や全体としての取組	官民連携による自然体験プログラムの開発、標識などの多言語化、脱炭素に関する取組が進展	本公園内の周遊性の向上に向けた取組は進展したが、ほかの自然公園との周遊性の向上に関する検討は進んでいない
霧島	受入環境	E-bikeを活用した二次交通の改善、老朽化施設の撤去などの景観改善などの取組により受け入れ環境が改善。特に御池においては廃屋の撤去後、民間による面的整備により上質化が図られた	取組が一部地域に限定され、面的に広がっていない
	自然体験プログラム	白紫池の湖面利用のルール化とルールに基づく新たな利用が促進された、地方銀行と地域の連携により周遊性を高める取組が進展	取組が一部地域に限定され、面的に広がっていない
桜島・錦江湾	受入環境	主要な観光拠点をめぐる周遊バスの運行によりアクセスが向上	交通拠点近くにおける新たな宿泊施設の誘致については検討が進んでいない
	自然体験プログラム	カヤック体験と海岸清掃を組み合わせたモデルツアーや、小学生を対象とした環境学習ツアーなどの自然体験ツアーの開発が進展	環境保全型ツアーについて民間事業者により商品化が進んだが、今後は取組の継続と、さらに多面的な展開が必要
指宿・佐多	受入環境	カフェの誘致、ワーケーションの環境整備などの滞在環境の上質化、利用協力金制度の導入による管理体制の向上、周遊バスの運行によるアクセスの向上など、受け入れ環境の整備が進展	取組が一部地域に限定され、面的に広がっていない
	自然体験プログラム	佐多地区における星空観察会等について検討したが、実施には至らず	参加者の安全確保が困難

## (4)最近の動き

### ① 国内外の動き

コロナ禍を経た旅行需要の変化として、個人旅行へのシフトの加速、自然・アクティビティに対する需要の高まり、持続可能な観光に対する意識の更なる高まり等がみられます。国は、令和5年(2023年)3月に「観光立国推進基本計画」を策定し、その中で今後の我が国の観光の復活に向けては、単なるコロナ前への復旧ではなく、コロナ前とは少し違った、持続可能な形での復活を図ることが求められており、そのためには、「持続可能な観光」、「消費額拡大」及び「地方誘客促進」をキーワードに、これまで以上に質の向上を重視した観光へと転換していくことが必要であるとしています。

九州においても、ゴールデンルートからの誘客に向けて、九州一体となった魅力発信・誘客が期待されており、令和5年(2023年)3月には、「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり事業」のモデル観光地の一つとして鹿児島・阿蘇・雲仙エリアが選定され、雲仙や阿蘇と連携した取組も開始しています。また、令和6年(2024年)8月から「九州Maas」がスタートし、鉄道、バス、タクシー、シェアサイクル等の九州全体の様々な移動手段を最適に組み合わせ、検索・予約・決済を一括で提供するサービスが開始されました。

国立公園を舞台にしたアドベンチャートラベルなど自然・文化体験への消費が増加しており、また、ロングトレイルやサイクリング(E-bikeなど)なども注目されつつある中で、観光全体に持続可能性や環境配慮を求める動きが進みつつあります。国内の一部地域では観光に伴う負荷・軋れき(オーバーツーリズム)が顕在化している状況の中で、その対応策としての地方誘客・利用分散のカギとして国立公園に期待が寄せられています。

### ② 霧島錦江湾国立公園周辺の動き

鹿児島空港発着の国際線は、コロナ禍の影響により、令和2年(2020年)3月以降、全ての路線で運休となりましたが、令和5年(2023年)6月以降順次運航再開し、令和6年(2024年)7月までに4路線(ソウル線、上海線、台北線及び香港線)全ての運航が再開しました。宮崎空港においても同様に、コロナ禍により全ての国際線が運休となりましたが、令和5年(2023年)9月にソウル線が、令和6年(2024年)11月に台北線が順次再開し、国際線の回復が進んでいます。

福岡空港に着陸した国際線は、コロナ禍前(令和元年度(2019年度))に約1.8万便、乗降客総数は約546.9万人でした。しかし、コロナ禍の影響により多くの国際線が運休し、令和2年度(2020年度)の着陸便数は約0.1万便、乗降客総数は約1.7万人まで落ち込みました。その後、令和5年(2023年)以降は国際線の再開・増便が進み、令和6年度(2024年度)には着陸便数が約2.3万便、乗降客総数は約850.9万人となり、コロナ禍前の水準を上回りました。

クルーズ船については、令和7年(2025年)の鹿児島県への寄港実績が過去最高の183

回となり、ラグジュアリー船などの寄港や欧米の乗船客が増加しています。

また、鉄道においては、JR 日豊本線の霧島神宮駅がリニューアル、仙巖園駅が令和 7 年（2025 年）3 月に新設され、国立公園へのアクセスへの利便性が高まっています。

宮崎県においては、令和 5 年（2023 年）6 月に宮崎県観光振興計画を改定し、食や自然、神話等の強みを生かした周遊・滞在型観光を推進するとともに、「えびの高原・白鳥温泉」「夷守台・生駒高原」「御池・高千穂峰」エリアを中心とした霧島錦江湾国立公園内の利用施設等の整備やアクティビティの充実を図ることとしています。また、鹿児島県においては、令和 7 年（2025 年）3 月に鹿児島県観光振興基本方針を改定し、豊かな自然・温泉・食を活かした魅力ある癒やしの観光地の形成と戦略的な誘客を推進することとし、霧島錦江湾国立公園の自然環境・景観資源を活かした体験型観光の磨き上げ等に取り組むこととしています。

# 3. 取組の基本方針

## (1) 取組の目標(方向性)

国立公園としてのブランド力の向上や、滞在環境の魅力の更なる向上、地域人材の確保・育成について、引き続き取組を進めていく必要があります。我が国の国立公園は、多様な関係者が管理に携わる「地域制公園」であり、課題の解決に向けては、国、地方自治体、民間企業・団体が、主体性と一体感を持ちながら「協働」することが必要です。国立公園の法律上の目的は「優れた自然の風景地を保護するとともに、その利用の増進を図ることにより、国民の保健、休養及び教化に資するとともに、生物の多様性の確保に寄与すること（自然公園法第1条）」とされていますが、例えば半島の先端といった都市部以外の地域への利用者の来訪を促し交流人口を拡大することで、人口減少、経済縮小といった地域社会の課題解決に貢献することも、地域社会にとっての国立公園の大きな存在意義だと考えます。

「関係者間が主体性と一体感を持ちながら協働することで、霧島錦江湾国立公園の保護と利用の好循環を推進することにより地域課題の同時解決を図り、地域社会の持続的な発展に貢献すること」を各種取組の共通理念として、以下の方向性で取組を進めます。

### ① 霧島錦江湾国立公園のブランド化

霧島錦江湾国立公園のブランド化を進めるために、地域・関係者が霧島錦江湾国立公園ならではのストーリーを明確化・共有し、自然と共生した暮らし・文化について誇りを持って来訪者に伝えていけるようにします。多様な主体と連携・協力・役割分担の上、戦略的かつ効果的にプロモーションを行います。

その上で、令和5年（2023年）に環境省が定めた「国立公園のブランドプロミス」を実現するためのブランディング活動を地域関係者の協力により推進します。



---

## ② 霧島錦江湾国立公園の資本である優れた自然風景の保全・再生

---

霧島錦江湾国立公園の最大の魅力は自然そのものです。

霧島錦江湾国立公園の重要な資本であり、基盤である優れた自然風景を適正に保全し、劣化した自然の再生を推進します。また、霧島錦江湾国立公園の優れた自然風景の保全・再生につながる利用（レスポンシブル・ツーリズム、リジェネラティブ・ツーリズム、環境教育等）の取組を推進します。

※レスポンシブル・ツーリズム：観光客が旅行先の自然、文化、地域住民の生活に配慮し、持続可能な観光を推進する「責任ある観光」

※リジェネラティブ・ツーリズム：単に観光地を「持続可能」にするだけでなく、訪問する前よりも良い状態にして地域を「再生」させることを目指す新しい観光

---

## ③ 優れた自然風景を活用した魅力的な滞在体験の提供

---

優れた自然風景を活かし、利用者に感動体験を提供する利用拠点の創出・管理、自然体験アクティビティの充実を図るとともに、地域・関係者が国立公園ならではのストーリーや自然と共生した暮らしについて誇りをもって利用者に伝えることで、魅力的な滞在体験と意識変容・行動変容の機会を提供します。

---

## ④ 保護と利用の好循環による地域への貢献

---

多様な主体が連携して上記の取組を推進することに加え、環境負荷の総量削減にも取り組むことで、地域の環境、文化、経済の各側面において地域社会の持続的な発展に貢献します。

国立公園及びその周辺の交流人口の拡大、滞在時間の延伸と消費機会の創出、新たな雇用機会の創出等を行うことで、人口減少・少子高齢化、地域経済の縮小、防災機能の向上などの地域課題の同時解決を図り、地域の方々のウェルビーイング向上に貢献します。

## (2)ターゲット

霧島錦江湾国立公園への訪日外国人利用者数のうち、9割以上を占めるアジア地域からの誘客を主要なターゲットとし、客単価の高い欧米豪の個人旅行客市場の開拓も進めます。

国内利用者については、都市部などから来訪する利用者のうち、特に宿泊や有料プログラム等により地域内での消費が多い利用者をターゲットとします。

上記を主要なターゲットとし、国内外問わず当公園のファン（当公園の取組に理解、賛同、共感して、何度も来訪してもらえる利用者や協力支援してもらえる者）を増やします。

### (3)指標

以下の指標を用い、総合的に達成状況进行评估します。

特に、前計画において目標として掲げている訪日外国人利用者数、利用者一人当たりの消費額、満足度については、更なる向上を目指します。

目標	量の指標 (アウトカム)	質の指標 (アウトカム)	活動指標 (アウトプット)
①ブランド化	<ul style="list-style-type: none"> <li>国立公園利用者数</li> <li>国立公園内宿泊者数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1人あたりの消費</li> <li>満足度、認知度、推奨意向、リピート率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国立公園のWEBサイト閲覧数</li> <li>ストーリー普及セミナー参加者数</li> </ul>
②風景の保全	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>景観改善の実施箇所数 (廃屋撤去、施設リニューアル、通景伐採等)</li> <li>利用拠点計画の策定数、利用拠点整備改善計画の認定数(協議会数)</li> <li>環境保全に関するイベント実施回数(海岸清掃等)</li> </ul>
③魅力的な滞在体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>国立公園利用者数</li> <li>国立公園内宿泊者数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1人あたりの消費</li> <li>満足度、認知度、推奨意向、リピート率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国立公園ならではの宿泊施設ガイドラインを満たす宿泊施設数</li> <li>国立公園ならではの自然体験アクティビティガイドラインを満たすアクティビティ数</li> <li>自然体験活動促進計画の認定数(協議会数)</li> </ul>
④保護と利用の好循環・地域貢献	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護への再投資額</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者負担の仕組み等、保護と利用の好循環に係る取組数</li> </ul>

## 4. 具体的な取組

### (1) 霧島錦江湾国立公園のブランド化

#### ① インナーブランディングの強化と国立公園ブランドプロミスの浸透

- ・霧島錦江湾の魅力や自然と共生した暮らし・文化について誇りを持って国内外に向けて発信できるよう、「霧島錦江湾国立公園 ストーリーブック」をガイド、飲食店、宿泊事業者、土産物店、交通事業者、学校関係者等に普及するためのセミナーの開催等を通じ、地域の受入関係者とのストーリー及びブランドプロミスの共有・浸透を図ります。

#### ② プロモーションの推進

- ・国立公園のプロモーションについては、「霧島錦江湾国立公園」という枠にとらわれず、九州を一体的にとらえて効果的な発信をしていく必要があることから、観光庁や九州観光機構をはじめ、九州各県、DMO、交通事業者、宿泊施設等と連携したプロモーションを実施します。
- ・プロモーションにあたっては、戦略的なターゲット設定を行い、UGC (User Generated Contents) を有効に活用するとともに、官民各主体が有するチャンネルやツールと連携の上、認知向上や来訪意欲向上のための効果的かつ効率的なプロモーションを実施します。

(取組例)

- ・旅行者自身の SNS 等における発信を促すことなどによる UGC (User Generated Contents) の創出・拡大
- ・各機関のオウンドメディア (HP、SNS、機関誌) によるプロモーション
- ・空港、駅、港といった主要交通拠点でのプロモーション
- ・ツーリズム EXPO や各種商談会への参加
- ・国内外の旅行会社・OTA (Online Travel Agent) 等への掲載
- ・国立公園オフィシャルパートナーの企業・団体等との連携
- ・ジオパークの取組や国際会議等を含む大型イベントの開催に合わせたプロモーション

## (2)霧島錦江湾国立公園の資本である優れた自然風景の保全・再生

### ①優れた自然景観の保護

- ・自然公園法や景観条例をはじめとする各種法令に基づく許認可制度を適切に運用し、各種開発行為を適切に調整します。
- ・また、利用ルール・マナーの普及活動を行うとともに、イベント等を実施し、利用拠点等の美化清掃を推進します。

### ②貴重な野生動植物の保全

- ・霧島地域においては、ノカイドウ保全のための被圧木伐採等による自生地内生育環境の改善、防獣ネット等の設置管理、自生地外での保存、普及啓発等。また、植生遷移とのバランスに考慮したミヤマキリシマの生育環境維持のための活動を行います。
- ・また、桜島・錦江湾奥地域、指宿・佐多地域ではサンゴ群集モニタリングを実施するとともに、ウミガメ保護に関する取組を推進します。

### ③劣化した自然環境の再生

- ・霧島地域におけるニホンジカ対策（モニタリング、管理捕獲、植生保護柵の設置等）を推進します。
- ・桜島・錦江湾奥地域や指宿・佐多地域では、自然共生サイトの認定推進を含め、劣化・喪失した藻場・干潟の保全・再生等に係る活動を官民連携のもとで展開します。
- ・また、登山道整備にあたっては、歩きやすくすることが第一目的の登山道整備ではなく、浸食原因（水の流れ等）に考慮された上で景観との調和が図られ、浸食等により劣化・喪失した周辺植生（生態系）の復元につながるような「近自然工法」による計画的な整備を推進します。登山道の維持管理においては、地域内で中心的に整備に従事する担い手の育成や利用者も参画できる制度づくりなどを行い、持続的な登山利用環境の保全を図ります。

### ④国立公園の保護に貢献するコンテンツの造成

- ・ジオパーク等と適宜連携を図り、霧島錦江湾国立公園の優れた自然風景の保全・再生につながるレスポンシブル・ツーリズム、リジェネラティブ・ツーリズム、環境教育等に関するコンテンツの造成を推進します。
- ・コンテンツの提供にあたっては、環境保全型ツアーや寄付型商品など、その成果の一部が地域内の環境保全の取組に還元される仕組みづくりの検討、導入等を図ります。

### (3)優れた自然風景を活用した魅力的な滞在体験の提供

#### ①利用者受入れのための基盤整備

- ・滞在環境上質化を目的として、利用拠点計画等を作成した上で、老朽化施設の撤去を含めて面的な景観改善・施設整備を図ります。さらに、地域の理解を得つつ、民間事業者の意向を把握し、地域の特性に合わせて取組内容を調整した上で、民間活用によるソフト・ハード・体制がパッケージとなった国立公園の魅力向上の取組（国立公園の滞在体験の魅力向上事業）の展開を検討します。
- ・「国立公園ならではの宿泊施設ガイドライン」や「国立公園ならではの自然体験アクティビティガイドライン」を踏まえ、感動体験を提供し、保護と利用の好循環へ貢献する宿泊事業者・コンテンツ提供事業者を支援します。
- ・民間事業者との連携により、E-bike やグリーンスマートモビリティの導入も含め地域にマッチする交通手段を活用し二次交通等の利便性を充実させるなど主要な観光コンテンツへのアクセスを改善します。
- ・九州 Maas との連携や活用によるアクセス性、利便性の向上を促進します。
- ・地域内の統一感、一体感に考慮した HP、パンフレット等の媒体や標識、案内板等の更なる多言語化やデジタル技術の活用による外国人観光客向けの情報提供を促進します。
- ・ビジターセンターの利用者サービスの更なる向上・上質化を行います。
- ・主要な展望地からの眺望景観維持のため、通景伐採を実施します。
- ・活火山の周辺地域においては、火山活動を前提として利用者等の安全確保を図るため、ハード、ソフト面から引き続き火山防災活動を推進します。国内及び訪日外国人を含む登山者・観光客等への情報発信など、噴火警戒レベル等に応じた防災・避難対応を着実に実施します。

#### ②ストーリーに沿った魅力的な自然体験の提供

- ・霧島錦江湾国立公園内の火山や海をはじめとする自然資源、歴史（神話等）、文化、食等のつながり（ストーリー）を体感できるアクティビティの造成・磨き上げをジオパーク等と適宜連携して推進し、旅行者自身が、未体験の多様な価値観に触れ、旅行者自身の内面に変化がもたらされるような旅行スタイルであるアドベンチャートラベルを地域内に実装していきます。
- ・造成等にあたっては、民間事業者に活用していただけるよう採算面も考慮するとともに、自然体験活動促進計画の認定制度等を活用しながら「特別感のある体験」や「ネイチャーポジティブな取組」を促進するよう奨励します。
- ・九州自然歩道をはじめとするロングトレイルを活用した「歩く旅」を推進し、滞在時間の長期化や地域間の周遊促進を図ります。
- ・自転車やE-bike 等を活用した周遊促進周遊性を高めるアクティビティを導入します。

- ・観光庁「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり事業」と連携し、阿蘇・雲仙エリアとの広域周遊を検討します。
- ・地域の自然や文化を案内できる既存の地元ガイドについて、インタープリテーション能力の向上を図るなどの更なる育成を検討するとともに、各種コンテンツの担い手となる民間事業者の雇用を維持するよう支援します。

### ③快適な利用の推進

- ・地域の利用ルール・マナー等の啓発を行うとともに、オーバーツーリズムを未然に防ぐ人数制限や利用分散の仕組みづくりについて検討します。
- ・閑散期や朝や夜の体験コンテンツ等の造成により、通年を通した宿泊客の獲得につなげます。

## (4)保護と利用の好循環による地域への貢献

### ①公正な利用とその対価が保護に再投資される仕組みづくり

- ・地域の状況を踏まえ、地域の合意形成をしっかりと図りながら、利用ルール・マナー、限定体験、利用者負担制度の導入等に取り組み、公正な利用とその対価が保護に再投資される仕組みの構築を推進します。
- ・環境保全活動を含む体験プログラム又は収益の一部を保全活動に還元する等の体験プログラムを検討します。
- ・利用拠点に整備された駐車場等の施設を活かして、利用協力金制度導入等、利用者負担による滞在環境の上質化を検討します。

### ②国立公園利用及び利用施設の脱炭素化、環境負荷削減（ゼロカーボンパーク等）の推進

- ・2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを表明した自治体（ゼロカーボンシティ）（宮崎県、鹿児島県、都城市、小林市、鹿児島市、指宿市、霧島市、始良市、南大隅町）や、令和8年（2026年）1月にゼロカーボンパークに登録された霧島市と連携し、脱炭素に向けた取組を検討します。
- ・「国立公園ならではの宿泊施設ガイドライン」や「国立公園ならではの自然体験アクティビティガイドライン」を踏まえ、省エネ・脱炭素、脱プラスチックに取り組む宿泊施設やコンテンツを支援します。

### ③地産地消の取組の推進

- ・国立公園及びその周辺地域における「地域ならではの」の食材をツアー・イベント等で活用するとともに、ブランド化や定期市・マルシェ等の開催を検討します。

## 5. 推進体制

### (1) 実施体制

各種取組の実施に当たっては、国、地方自治体、民間企業・団体が、主体性と一体感を持ちながら協働することが必要です。

- ・国立公園満喫プロジェクト霧島錦江湾地域協議会メンバーの相互の連携を強化し、当協議会を「協創の場」として機能強化を図ります。
- ・構成員以外の地域内の関係者を含めた官民連携を推進し、国立公園オフィシャルパートナーや地域外の企業等からの支援の仕組みづくりを検討します。
- ・ボランティア活動を含む地域住民の参画の仕組みづくりを推進します。
- ・霧島ジオパーク、桜島・錦江湾ジオパークとの連携により、活動の効率化と相乗効果を図ります。

### (2) 効果検証等

- ・個別の取組については、各施設の利用者数や各スポットの入込者数を用いて検証します。
- ・利用者アンケート等によって、分野ごとの満足度を把握し、強化すべき取組を抽出します。
- ・プログラムの実施により自然資源が損なわれる恐れが想定される場合は、自然資源保全のための計画策定を検討します。
- ・本プログラムは、今後、行政や民間等の関係者が連携し、これから検討していく取組の方向性を示したものであり、具体的な「行動計画」については本計画策定後に、関係者と熟議を重ねた上で別途策定します。
- ・今後も霧島錦江湾地域協議会の体制を維持し、年1回程度の協議会の開催に加え、随時部会で各取組の状況等を踏まえて評価・議論を行います。それらの結果は本ステップアッププログラムの改訂や翌年度の取組に反映させていくこととします。



## 国立公園満喫プロジェクト 霧島錦江湾地域協議会 設置要綱

平成 28 年 9 月 8 日 施行  
平成 31 年 1 月 30 日 改訂  
令和 3 年 1 月 29 日 改訂  
令和 4 年 1 月 25 日 改訂  
令和 5 年 7 月 12 日 改訂  
令和 7 年 5 月 28 日 改訂

### (目的)

第 1 条 国立公園の美しい自然を活かし、より上質な体験を提供することにより、世界水準の「ナショナルパーク」へと改革していく国立公園満喫プロジェクトを霧島錦江湾国立公園において推進するための具体的なプログラム（以下「ステップアッププログラム」という。）を策定し、実施していくことを目的に、関係機関の相互の連携を図るため、霧島錦江湾地域協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

### (協議事項)

第 2 条 協議会は、以下に掲げる事項を協議する。  
(1) 霧島錦江湾国立公園及びその関連地域における国立公園満喫プロジェクトの推進に関する事項  
(2) 「ステップアッププログラム」の策定及び実施に関する事項  
(3) その他、前条の目的を達成するために必要と認められる事項

### (構成員)

第 3 条 協議会は、別表に掲げる関係機関等をもって構成する。  
2 協議会は、必要に応じアドバイザーを招集することができる。

### (会議)

第 4 条 会議は、必要に応じて事務局が招集する。  
2 議事は、事務局において進行する。

### (地域部会)

第 5 条 霧島錦江湾国立公園の霧島地域、桜島・錦江湾奥地域及び指宿・佐多地域、並びにその関連地域における具体的な事項を検討するため、霧島地域部会、桜島・錦江湾奥地域部会及び指宿・佐多地域部会を設置する。  
2 霧島地域部会では、次の事項について所掌する。  
(1) 「ステップアッププログラム」のうち霧島地域及びその関連地域に関する事項の検討  
(2) 「ステップアッププログラム」のうち霧島地域及びその関連地域に関する事項の推進  
3 桜島・錦江湾奥地域部会では、次の事項について所掌する。  
(1) 「ステップアッププログラム」のうち桜島・錦江湾奥地域及びその関連地域に関する事項の検討  
(2) 「ステップアッププログラム」のうち桜島・錦江湾奥地域及びその関連地域に

関する事項の推進

- 4 指宿・佐多地域部会では、次の事項について所掌する。
- (1) 「ステップアッププログラム」のうち指宿・佐多地域及びその関連地域に関する事項の検討
  - (2) 「ステップアッププログラム」のうち指宿・佐多地域及びその関連地域に関する事項の推進
- 5 地域部会には、協議会の構成員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(作業部会)

- 第6条 第2条に掲げる協議事項について、必要に応じ一時的かつ専門的に調査、検討及び協議を行う作業部会を設置することができる。
- 2 作業部会には、協議会の構成員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(事務局)

- 第7条 協議会の事務局は、宮崎県環境森林部、鹿児島県環境林務部及び九州地方環境事務所に置く。

- 第8条 各地域部会の事務局は、該当県及び九州地方環境事務所に置く。

(その他)

- 第9条 この要綱に定めるもののほか、地域部会の運営に関し必要な事項は各地域部会の事務局において定め、その他、協議会の運営に関し必要な事項は協議会の事務局において定める。

附 則 この要綱は、平成28年9月8日から施行する。

附 則 この要綱は、平成31年1月30日から施行する。

附 則 この要綱は、令和3年1月29日から施行する。

附 則 この要綱は、令和4年1月25日から施行する。

附 則 この要綱は、令和5年7月12日から施行する。

附 則 この要綱は、令和7年5月28日から施行する。

## 別表

## 国立公園満喫プロジェクト 霧島錦江湾地域協議会構成員

構成員		
国	九州農政局	農村振興部地方参事官
	九州森林管理局	計画保全部長
	九州地方整備局	企画部長
	九州運輸局	観光部長
	九州地方環境事務所	所長
県	宮崎県	環境森林部長 商工観光労働部長
	鹿児島県	環境林務部長 観光・文化スポーツ部長
市町	都城市	市長
	小林市	市長
	えびの市	市長
	高原町	町長
	鹿児島市	市長
	指宿市	市長
	垂水市	市長
	曾於市	市長
	霧島市	市長
	始良市	市長
	湧水町	町長
	南大隅町	町長
	民間	(一社)九州観光機構
(公財)宮崎県観光協会		専務理事
(公社)鹿児島県観光連盟		専務理事
鹿児島県旅行業協同組合		事務局長
宮崎銀行		営業統括部長
鹿児島銀行		地域支援部長



# 霧島錦江湾国立公園ステップアッププログラム2030（概要）

## 1. はじめに

### プロジェクトの理念

- ・ 来訪者への感動・気付き・学びの提供  
→ 自然環境への責任と愛着の喚起  
→ **保全への関与・貢献を引き出す**
- ・ 地域の魅力・ブランド力の向上  
→ 観光振興、交流人口拡大、二次交通維持  
→ **地域課題の解決**

### 目的と役割

- ・ 計画期間：2026年度から2030年度までの5年間
- ・ SUP（ステップアッププログラム）2025を継承しつつ、霧島錦江湾国立公園の保護と利用の好循環による更なる地域貢献に向けた、関係機関が一体となった取組の指針

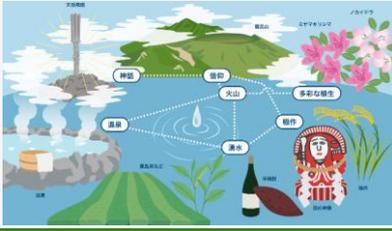
## 2. 霧島錦江湾国立公園について

### コンセプトとストーリー

#### 全体のコンセプト

南北に連なる火山帯が織りなす壮大な地形とその恵み、悠久の歴史と神話に彩られた霧島・錦江湾  
～ まるごと楽しむ南九州の自然・文化・食 ～

多様な火山地形と活きた火山の恵み、神話と伝承を辿り、自然と人々の営みが織りなすストーリーを体感、体験して楽しむ霧島地域



太古の火山活動でできた錦江湾の豊かな海と活火山桜島を真近に体感、桜島・錦江湾奥地域



多様な温泉と開聞岳の眺め、海岸の断崖景観と亜熱帯性植物の指宿・佐多地域



### 現状分析



- ・ 利用者の回復傾向：2023年にはコロナ前の約99%まで回復。
- ・ インバウンドの現状：空港の国際線定期便再開の遅れ等の要因により、2024年時点での訪日外国人数はコロナ前の約43%に留まっている。
- ・ 利用の「質」：訪日外国人の認知度、推奨意向、支出額、リピーター率が向上。  
テキストマイニングの結果、温泉や景観、食事への満足度が高い一方で、二次交通や案内標識の改善要望が見られる。

### これまでの成果と課題

#### 霧島地域

- ・ 御池皇子港：景観阻害になっていた廃屋化した休憩施設の解体撤去、駐車場・公衆トイレの改善
- ・ 韓国岳、高千穂河原周辺の歩道、展望台、ビジターセンター等の整備
- ・ 道の駅えびのにおけるアウトドアステーションの開設
- ・ 白紫池スタンドアップパドルポートや霧島神宮周辺のE-Bike利用等の新たな体験コンテンツの創出
- ・ 霧島連山周遊バスや霧島神宮アクセスバス等の周遊バスの運行 等



写真：利用拠点整備後の御池皇子港（令和4年度（2022年度））

#### 桜島・錦江湾奥地域

- ・ 桜島ビジターセンター周辺や、なぎさ遊歩道の整備
- ・ 桜島港フェリーターミナルのリニューアル
- ・ 重富海岸の駐車場整備
- ・ 海洋ゴミを回収するカヤックツアー等の民間と連携した体験コンテンツの造成 等

#### 指宿・佐多地域

- ・ 佐多岬：展望台・公園エントランス等の一体的整備
- ・ 雄川の滝：国立公園編入、施設整備、利用者負担制度の導入
- ・ 佐多岬・雄川の滝をめぐる周遊バスの運行による二次交通の改善
- ・ 池田湖：カフェ等を併設した利用拠点の整備や体験コンテンツの充実
- ・ 鰻池周辺：駐車場整備
- ・ その他、ガイド人材の育成 等

### 最近の動き

- ・ 自然・アクティビティや持続可能な観光に対する需要・意識の高まり
- ・ 「モデル観光地」として鹿児島・阿蘇・雲仙が選出
- ・ 九州Maasの開始



鹿児島・宮崎・福岡の各空港で国際線が再開し、特に福岡はコロナ前を上回る規模へ拡大

クルーズ船寄港数も過去最高を記録



JR霧島神宮駅の改装や仙巖園駅の新設により、国立公園への鉄道アクセスが強化

#### 全体

- ・ 4地域それぞれの地域資源の繋がりをストーリーとして整理し、「ストーリーブック」を作成  
⇒ インナーブランディング、ガイド育成、プロモーション、コンテンツ造成に活用

宮崎・鹿児島両県が観光に関する計画や方針を改定

課題：インタープリテーション人材の強化、コンテンツの担い手の雇用維持・拡大、戦略的なプロモーション 等

# 霧島錦江湾国立公園ステップアッププログラム2030（概要）

## 3. 取組の基本方針

### 目標（方向性）

共通理念：関係者間が主体性と一体感を持ちながら協働することで、霧島錦江湾国立公園の保護と利用の好循環を推進することにより、地域課題の同時解決を図り、地域社会の持続的な発展に貢献すること

霧島錦江湾国立公園の  
ブランド化

優れた自然風景の  
保全・再生

魅力的な  
滞在体験の提供

保護と利用の好循環に  
よる地域への貢献

### ターゲットと指標

- ・訪日外国人：訪日外国人利用者数のうち9割以上を占めるアジア地域からの誘客を主要なターゲットとし、客単価の高い欧米豪の個人旅行客市場の開拓を進める。
- ・国内利用者：都市部からの来訪層に対し、宿泊や有料ガイドプログラムを通じて地域内での消費が多い利用者をターゲットとする。

目標（方向性）の4項目ごとに、量の指標・質の指標・活動指標を設定

## 4. 具体的な取組

霧島錦江湾国立公園の  
ブランド化

### ① インナーブランディングの強化

「ストーリーブック」を普及し、地域の受入関係者間でストーリーおよびブランドプロミス共有・浸透を図る。



### ② プロモーションの推進

九州一体となった広域で連携したプロモーションを展開する。戦略的なターゲット設定に基づき、UGCや官民の多様なチャンネルを効果的に掛け合わせることで、当国立公園の認知度向上と誘客を効果的かつ効率的に推進する。

優れた自然風景の  
保全・再生

### ① 優れた自然景観の保護

法令に基づき開発等を適正に調整しつつ、マナー啓発や美化清掃により利用拠点の景観を維持する。

### ② 貴重な野生動植物の保全

ノカイドウやミヤマキリシマ、サンゴ、ウミガメの保護・保全を推進する。

### ③ 劣化した自然環境の再生

シカ対策、藻場再生、近自然工法による持続的な登山道整備等を推進する。

### ④ 保護に貢献するコンテンツの造成

レスポンスブル・ツーリズム、リジェネラティブ・ツーリズムに関するコンテンツの造成を推進する。

魅力的な  
滞在体験の提供

### ① 利用者受入れのための基盤整備

面的な景観改善や、民間活用によるソフト・ハード・体制がパッケージとなった国立公園の魅力向上の取組を検討する。

### ② ストーリーに沿った魅力的な自然体験の提供

ストーリーを体感できるアクティビティの造成・磨き上げを行い、アドベンチャートラベルを地域内に実装する。

### ③ 快適な利用の推進

地域の利用ルール等の啓発を行うとともに、オーバーツーリズムを未然に防ぐ人数制限や利用分散の仕組みづくりについて検討する。

保護と利用の好循環に  
よる地域への貢献

### ① 公正な利用とその対価が保護に再投資される仕組みづくり

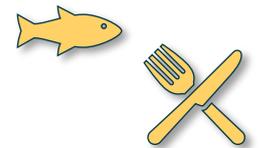
地域の合意形成を図りつつ、利用者負担制度を導入し、その対価を自然環境の保全に還元する仕組みづくりを進める。

### ② 脱炭素化、環境負荷削減の推進

ゼロカーボンシティ・パークと連携し、環境負荷削減を推進する。

### ③ 地産地消の取組の推進

国立公園の地域食材を活用したツアーやイベントを展開し、ブランド化等を検討する。



## 5. 推進体制

### 実施体制

- ・官民連携の強化：協議会を「協創の場」として機能強化し、国立公園オフィシャルパートナーや地域外組織との支援体制づくりを検討する。
- ・多様な主体との協働：地域住民の参画促進や各ジオパークとの連携により、活動の効率化と相乗効果を図る。

### 効果検証等

- ・効果検証と改善：利用者数やアンケートによる満足度調査を行い、強化すべき取組を抽出する。
- ・具体的な「行動計画」については本プログラム策定後に、関係者と熟議を重ねた上で別途策定する。

## 国立公園満喫プロジェクト 霧島錦江湾国立公園ステップアッププログラム 2030

---

発行日：令和8年2月20日

発行：霧島錦江湾地域協議会

【事務局】環境省 九州地方環境事務所 霧島錦江湾国立公園管理事務所

〒890-0068 鹿児島市東郡元町 4-1 TEL 0992-13-1811

宮崎県 環境森林部 自然環境課

〒880-0805 宮崎市橘通東 2-10-1 TEL 0985-44-2624

鹿児島県 環境林務部 自然保護課

〒890-0064 鹿児島市鴨池新町 10-1 TEL 0992-86-2617

---

リサイクル適性の表示：印刷用の紙にリサイクルできます

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料 [Aランク] のみを用いて作製しています。